

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700980		
法人名	特定非営利活動法人 柳沢		
事業所名	グループホームいちょうの郷		
所在地	青森県三戸郡階上町赤保内字柳沢15番地269		
自己評価作成日	令和5年8月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自立のために支援します」、「人生の大先輩としてその尊厳を大切にします」等、事業所の理念とし、日々のケアに取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは新興住宅地の中にあり、地域住民との日常的な交流が難しい環境ではあるが、職員は挨拶を欠かすことなく、ホームに関心を持ってもらえるように取り組みを続けている。 全ての職員が利用者の尊厳を大切にすることを一番に考え、利用者が生きがいを持ち続け、うるおいのある自立した生活ができるよう、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示したり、申し送り時等に読み上げ、共有に努めている。また、日々のサービス提供場面に反映させている。	職員全員で意見を出し合って作成した理念があり、玄関や事務室に掲示している他、職員が申し送りをする場所にも拡大した物を掲示し、折に触れて目にできるようにしている。職員は日々、理念に沿ったケアを実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策のため、地域との交流が難しくなっているが、運営推進会議の資料を送付する等し、地域との交流を図るようにしている。収束したら、地域との交流を図るための働きかけを再開していきたい。	ホームの夏祭りには運営推進会議のメンバーや家族を招待したり、保育園児の訪問を受け入れる等していたが、感染防止のため、縮小や中止がやむを得ない状況である。今年には町のえんぶり組の披露が屋外で行われ、文化祭への作品展示も行う予定であり、今後も感染状況を見つつ、できる範囲で地域との交流を図りたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、運営推進会議を開催できない状態が続いているが、資料等の送付により、事業所の持つ実践経験等を伝える取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面等により、評価への取り組み状況について報告を行い、サービス向上に活かすよう、柔軟に取り組んでいる。	コロナ禍前は対面で運営推進会議を開催し、メンバーから様々な情報や意見、提案をいただいていた。現在は2ヶ月に1回、ホームの取り組みや利用者の生活状況等について、写真付きの報告書類を作成し、メンバーに送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策のため、集まった運営推進会議は開催できていないが、町担当者へも資料等を提出して、事業所の取り組みを伝えるようにしており、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	日頃から、町の担当課からメールやFAX等で様々な情報提供があり、疑問な事がある時は電話で聞いたり、直接足を運んで確認する等している。また、書面で運営推進会議の報告を行っている他、自己評価及び外部評価結果も提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内部研修を行い、身体拘束のないケアに努めている。離床センサー等を設置し、外出傾向を察知できるよう、見守りを行っている。	3ヶ月に1回「身体拘束等適正化対策検討会議」を開催し、ホームの現状確認や勉強の機会を設けている。また、マニュアルを作成している他、やむを得ない場合に備えて、同意書や経過観察等の記録を残す体制を整えている。職員は身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組み、夜間以外は玄関の施錠をせず、職員同士が協力し合って見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、虐待防止法等について学ぶ機会を持つようにしている。また、入浴時に異変を見過ごすことのないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を持てるよう、研修計画に組み込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族の意向を引き出せるような対応を心がけている。退去時には、退去先へ情報の提供を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症対策のため、運営推進会議を開催できていないが、資料等を送付して、事業所の取り組みを伝えるようにしている。面会時には利用者の状態や受診状況、金銭管理状況を伝えるようにしている。	利用者や家族が自由に意見や要望を話せるように働きかけており、出された意見等は申し送りや業務日誌で共有し、話し合いの上、ケアに反映させている。また、行事を行った時は利用者の写真を添えて、手紙で報告をする等、利用者の暮らしぶりを家族に伝えながら、意見等を出しやすいようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で意見交換の機会を設け、日々のケアについて話し合うようにしている。職員の希望や都合等を取り入れ、勤務体制を組んでいる。	職員は申し送りや職員会議で自由に意見交換を行うことができ、業務の合い間にも職員同士、気兼ねなく話し合える関係を構築している。ホームでは、主任に意見や提案をして、必要に応じて理事長に相談する体制であり、職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	保有資格を活かした職員配置となるように配慮している。また、健康診断の実施により、心身の健康を保てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症対策のため、外部での研修を受ける機会が減ってきているが、感染症が収束したら、外部研修を受ける機会を確保していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協議会に加入し、交流の機会を確保するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった場合は面談する等し、できるだけ利用希望者や家族等との信頼関係を築くことを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受ける際には家族等に耳を傾け、信頼関係を築くことを意識しながら、対応を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に必要としている支援について話していただき、対応できる事は対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話の中で共に楽しみを共感したり、個々の得意分野を理解し、生活支援を行うようにしている。(タオルたたみ、テーブル拭き、折り紙等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話時、家族との情報交換を行い、家族の思いを把握すると共に、職員の気づきを共有し、共に支える関係を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪時は家族等からの情報を基に、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。また、希望に沿って馴染みの場所へ出かけることができるよう、支援に努めている。	感染状況に配慮しつつ、現在は玄関に椅子とパーテーションを用意し、面会できるようにしている。電話のやり取りをお手伝いしたり、馴染みの美容院や床屋に行きたい等の希望があれば、家族にも相談しながら、できるだけ希望に沿えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座席を考慮したり、職員も間に入ってコミュニケーションやレクリエーション等を行い、孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談がある場合は、必要に応じて支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者とは話し、思いや意向を把握するように努めている。必要に応じて、家族等より情報を得るように努めている。	職員は利用者との信頼関係構築に努め、日常の会話を通して、思いや意向を把握している。また、必要に応じて家族からも情報をいただき、全職員で内容を共有しながら、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時等、家族等から利用者の情報を収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して、利用者個々の一日の暮らしの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・意向を把握した後、会議の中で意見を出し合い、その内容を介護計画に反映させるようにしている。	利用者や家族の意見を聞き、月1回のケア会議で意見交換して、利用者の能力を活かせるような介護計画を作成している。毎月のモニタリングと計画実施期間終了時に評価を行い、状態変化等が見られて必要な時は、期間内でも随時見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に記入し、職員間での情報共有に努めている。また、ケアの実践や介護計画に活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、外出支援等のサービスを取り入れるようにしていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署等に安全に暮らせるように協力をお願いし、地域の資源を活用できるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診状況を把握し、希望に応じて継続受診ができるように支援している。状況に変化があった場合は主治医へ連絡し、指示を受け、検査等をしていただき、家族等には電話で相談する等、情報交換を行うようにしている。	入居時、月2回の訪問診察があることを説明している他、希望する医療機関を受診できるように支援している。複数の医療機関の受診が必要な場合は家族にも協力をお願いし、それ以外はホームで対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に変化があった時は、協力医療機関やかかりつけ医に状態を伝え、受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の身体状況に変化があった時は、協力医療機関やかかりつけ医に状態を伝え、受診できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に、事業所ができる事・できない事について説明をするようにし、意思統一を図っている。家族等の協力を得ながら、事業所での対応が可能な限り、支援に取り組むようにしている。また、終末期に対応している施設へ紹介できるよう、各関係者と話し合いをしている。	ホームでの看取り介護は行わない方針であり、入居時に説明をしている。ホームでは、利用者の状態変化を注意深く見守り、早めに特別養護老人ホームへの申し込みを提案したり、契約医療機関で経営している医療体制の整った施設への住み替えを提案する等、個々の状態に合った方法を家族と一緒に検討し、不安なくスムーズに住み替えができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナウイルス感染症対策のため、外部研修への参加は難しいが、内部研修により、実践力を身につけられるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員と利用者が一緒に避難訓練を実施することにより、避難方法を身につけるようにしている。また、消防設備等の点検を定期的に行っている。	夜間想定も含めて年2回、隣接する法人内施設と合同で避難訓練を行っている。車で5分程度の場所に消防署があり、担架の作り方や2階からの避難等、様々な助言をいただいている。また、災害時に備えて、食料や飲料水、スロープ、小型発電機等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている利用者もいるが、利用者の状態を把握して尊厳を大切に、サービス提供に努めていくようにする。会議時、利用者への声かけや対応について反省点を挙げ、日々の確認や改善に向けた取り組みを行うようにしている。	理念に沿って、利用者の誇りやプライバシーに配慮した言葉遣い、対応を心がけており、馴れ合いにならないよう、お互いに注意しながら業務を行っている。職員会議でも日々のケアを振り返る機会を設けており、理事長含め全職員で、利用者が生きがいを感じて生活できるような支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の希望や思いを聞いたり、自己決定できる機会を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花植え等、希望を取り入れた支援ができるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は着替えを利用者に準備していただいたり、外出時は好みの服を着ていただく等、支援をしている。送迎を家族にお願いし、馴染みの理美容院に出かけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な物は別の物で代用し、提供している。行事食等、利用者の希望を取り入れるように配慮している。	週3日は業者による献立・食材配達を利用し、残り4日は職員が献立作成・食材調達を行っている。月1回、季節を意識して工夫を凝らした行事食を提供し、利用者が食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分等の1日の摂取量を把握するように取り組んでいる。状態により食形態を工夫し、食事を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行うようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに応じて、できる限りトイレでの排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録して個々のパターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。夜間も極力紙オムツは避け、ポータブルトイレを利用する等、自立に向けた支援を行っている。また、日々の状況変化を観察し、排泄用品や介助方法の変更が必要な時は家族とも相談して、個々に合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な話し合いにより、個々に合わせて下剤を調整するようにしている。水分を多めに摂っていただいたり、野菜をメニューに加える等、便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の意向を取り入れ、声かけや対応をするように工夫している。	各ユニットで週4日、午前の入浴日を設定し、利用者がゆっくりと入浴できるよう、一日の入浴介助を4～5名としている。職員は利用者の体調や気分を見ながら声かけし、拒否が強い時は無理に勧めずに翌日にする等、柔軟に対応しながら、一人週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後には休息を取り入れるように取り組んでいる。夜間、眠れない利用者には日中離床を勧め、生活にリズムをつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の記録に薬の内容や用量等をファイルし、把握できるように取り組んでいる。薬の処方や用量が変更になった場合は、職員間で声をかけ合うようにしたり、業務日誌に記入し、把握に取り組んでいる。飲み忘れや誤薬の無いよう、食後、一人ひとりに渡し、支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物やタオルたたみ、ぬり絵、折り紙等、利用者一人ひとりに合った役割を促し、気分転換等ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先は利用者の希望も取り入れるようにしている。希望に沿えない場合でも、希望に近いような所へ外出できるように取り組んでいる。	利用者と職員と一緒に庭の花壇に花を植える等、戸外へ出て気分転換を図っている。馴染みのある場所へのドライブの際は、車に乗ったまま景色を見ていただく等、感染状況にも配慮しながら取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は利用者自らも金銭管理を行えるよう、職員が見守る等し、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける場合は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面を活用して飾り付けをしたり、写真や生花等、季節を感じ取れる工夫をしている。リビング内に温・湿度計を設置する等し、過ごしやすい環境となるように調整している。	ホーム内には季節の生花が飾られている他、リビングや廊下には利用者と職員が一緒に作った作品がたくさん飾られている。パネルヒーターの暖房とエアコン、必要に応じて加湿器や扇風機等も利用し、温・湿度計を適宜確認しながら、適切な環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには小上がりやソファがあり、気の合う利用者同士で過ごせるよう、居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出のある物(誕生日カード、家族の写真等)を持って来ていただくように働きかけることにより、居心地良く過ごせる工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持ち込みをお願いしており、担当職員が利用者と相談しながら、利用者が生活しやすい環境作りを行っている。また、入居後も家族が持って来てくれた物を飾ったり、馴染みのある風景写真や誕生会の色紙を飾る等、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態により、トイレ近くの居室を利用していただいたり、トイレや居室がわかるように目印を付ける等して、環境作りに取り組んでいる。		